

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松濤会	代表者	松本定信	法人・ 事業所 の特徴	市役所や銀座通り等、大通りに面した中心街に位置しており、地域社会との交流や接点を持ちながら、生活を維持できるよう支援しています。「お望みの時に、お望みの介護を」を目指し、通いを中心に、宿泊や訪問を柔軟に組み合わせて、馴染みの職員が馴染みの場所で、通い・宿泊サービスを提供し、訪問も馴染みの職員が対応しますので利用者様、ご家族様も安心していただけます。 また、特別養護老人ホーム「助川サテライト」を併設しており、助川サテライト入居者様、ご家族様との交流も多く、家庭的な雰囲気を楽しめます。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所 銀砂台 「鹿島町クラブ」	管理者	鈴木 菜子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1名	1名	1名					9名		12名

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ケース記録の簡素化を図り、利用者様との関わりの時間を増やす。	記録用紙を簡素化することにより、利用者様と関わる時間が増えた。特記事項欄に関しては、ペンの色を変える等の方法で明記し情報の共有を図った。	新型コロナウイルス感染症対策を取りながらも、利用者が必要とする支援は何かを考えなければならない。介護の目的は「安全」のみではなく、その人らしい充実した暮らしへの支援にある。本人の希望した支援に耳を傾け、丁寧に対応して行く事が大切。	日頃行っている支援内容が適切かどうか検証を重ねる。月1回のモニタリングを活用し個々の必要に応じた支援を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	イベント毎に鹿島町クラブの様子を、ホームページを活用し公表する。	コロナ感染防止策のため、イベントの中止が多かった。また、ブログの更新ができなかった。	コロナ禍の中ではホームページを有効活用し、地域の方々に情報を発信し知ってもらおう事が大切。	前回の改善計画が達成できなかったことから、今年度もホームページを活用し情報を発信する。

C. 事業所と地域のかかわり	今後も地域の行事に参加し、地域住民との交流を深める。	地域行事の中止が多かったため、参加できなかった。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出を控え交流を自粛した。		今年度も感染症対策をしっかりと取りながら、職員が町内会に参加するなどして地域の方々との交流を続ける。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者様の近所の住民の方々にも積極的に声掛けを行い、馴染みの関係を築く。	過度の接触は避けソーシャルディスタンスを保ちながら、挨拶や声掛けを行った。	地域資源とは難しく考えなくてもよい。周りの友達や、病院なども含まれる。本人に必要なものと考えてよい。	地域資源を把握して、利用者様の必要に応じた情報提供や支援を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	〈暮らし方シート〉をより良い物にする為に利用者様の近所の方からも情報やアドバイスを頂く。	近隣住民と送迎時に交流を図り、利用日以外の様子を聞くなどして、暮らし方シートの追記を行い情報の共有に繋がった。	事業所職員から推進委員に個別の説明と意見の聞き取りがあった。そのため書面では理解できない部分も分かりやすかった。	書面会議の際は、一般の職員も推進委員への説明や聞き取りに参加する。
F. 事業所の防災・災害対策	利用者様宅の危険箇所を把握する。  災害発生時用の利用者様の連絡先一覧表を作成する。	送迎時の危険箇所を調べ、新人職員にもわかりやすいように一覧表を作成した。  また、安否確認がスムーズ行えるよう、緊急時災害用の連絡網を作成した。	次年度もホームページに年間の計画表を入れてほしい。また、推進会議の日に、訓練を実施してみてもどうか。	ホームページに防災計画を掲載する。また、ブログを活用し防災訓練の実施状況を発信する。